

8章 男性の父親アイデンティティと子育て頻度

1. 父親アイデンティティ

日本では、子育てを積極的にしている男性にとって、父親役割は自分のアイデンティティの重要な一部であることや(Ishii-Kuntz, 2003), 父親役割を重要視している男性ほど子育て参加をすることが明らかになっている(石井クンツ, 2009)。Fox ほか(2001)は、男性が子育てに対するアイデンティティを持っていると子育て参加行動が多いことを示している。また、日本においては、子どもに肯定的な価値観を持っている父親は、子育て参加が多いことも明らかになっている(柏木ほか, 1996: 佐々木, 2009)。そこで、この章では、父親アイデンティティを測る項目として、子どもに対する父親役割観と子どもに対する価値観の2側面から、男性の子育て頻度との関係をクロス集計により検討することにした。

男性の子育ての頻度を測る項目は、第1章で述べられている項目(未就学児: 7項目、就学児: 5項目)である(第1章参照)。この章においても、男性の父親アイデンティティと子育て頻度の関係を、未就学児に対してと就学児に対しての2通りにわけて分析した。

2. 父親アイデンティティを図る質問項目

(1) 父親役割観を測る項目

父親役割観を測る項目として、以下の5項目を使用した。

【父親役割観】

1. 父親として子どもの成功のためなら何でもする
2. 子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である
3. 父親としての役割を最も重要視している
4. 父親として子どものロールモデルになりたい
5. 父親として子どものしつけを重要視している

以上の質問について、[1. 全くそうでない、2. あまりそうでない、3. どちらでもない、4. まあそうである、5. かなりそうである]の5段階で回答を求めた。

(2) 子どもの価値観を測る項目

子どもに対する価値観を測る項目として、以下の5項目を使用した。尚、これらの項目は、柏木ほか(1996)より引用した。

【子どもの価値観】

1. 子どもは自分の分身だと思う
2. 親であることに充実感を感じる
3. 自分の中で最も重要なのは子どもである
4. 子どもは生きがいである
5. 子どもは心のささえである

以上の質問について、[1. 全くそうでない、2. あまりそうでない、3. どちらでもない、4. まあそうである、5. かなりそうである]の5段階で回答を求めた。

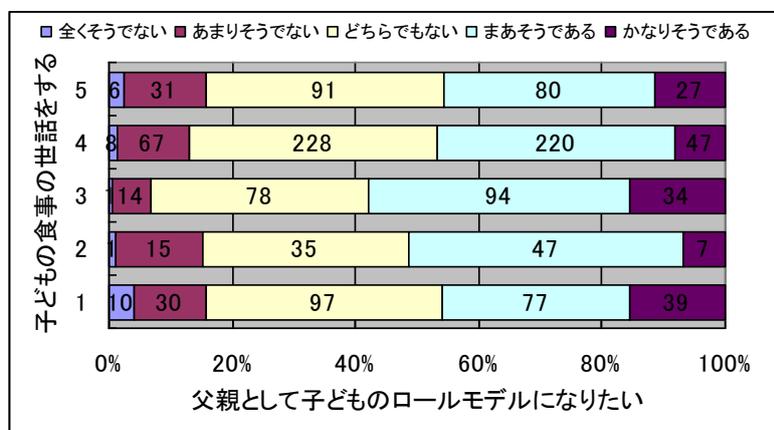
3. 未就学児に対する子育てと父親役割観

(1) 男性の未就学児子育て項目と父親役割観項目との有意関係の結果

「1. 子どもの食事の世話をする」

子どもの食事の世話をすることと有意な関連があったのは、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」「父親としての役割を最も重要視している」「父親として子どものロールモデルになりたい」「父親として子どものしつけを重要視している」の4項目であった。その中で、1%水準 ($p < 0.01$) で有意であった「父親として子どものロールモデルになりたい」と「子どもの食事の世話をする」の頻度の関係を図8-1に示した。Y軸の1から5の目盛りは、1. 毎日、

図 8-1

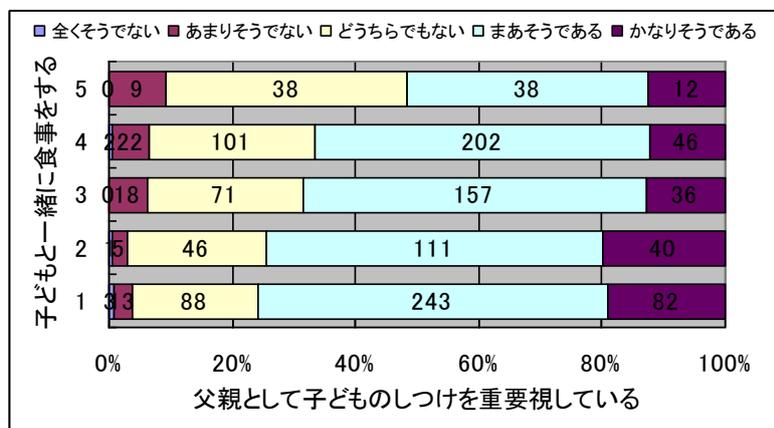


2. 週に5-6回、3. 週に3-4回、4. 週に1-2回、5. 全くない、を示している(以下の図も同様である)。この図から、子どもの食事の世話をするどの頻度においても、子どものロールモデルになりたいと考えている割合があまり変わらないことがわかる。

「2. 子どもと一緒に食事をする」

子どもと一緒に食事をする事と有意な関連があったのは、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」「父親としての役割を最も重要視している」「父親として子どものしつけを重要視している」の3項目であった。そのうち、1%水準 ($p < 0.01$) で有意であった「父親として子どものしつけを重要視している」と「子どもと一緒に食事をする」の頻度の関係を図8-2に示した。この図から、毎日子どもと一緒に食事をする父親は約80%がしつけを重要視しているのに対して、全く食事をしない父親は約50%しかしつけを重要視していないことがうかがえる。

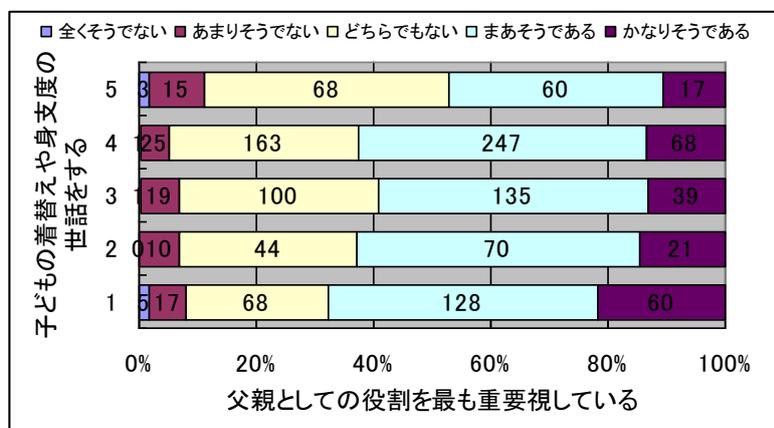
図 8-2



「3. 子どもの着替えは身支度の世話をする」

子どもの身支度等の世話をするに対して有意な関連があったのは、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」「父親としての役割を最も重要視している」「父親として子どものロールモデルになりたい」「父親として子どものしつけを重要視している」の4項目であった。

図 8-3

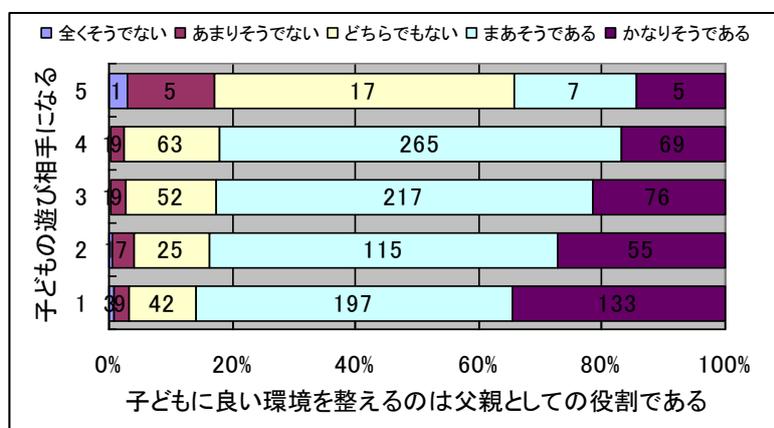


その中で、「父親としての役割を最も重要視している」と「子どもの着替えは身支度の世話をする」の頻度の関係を図 8-3 に示した。この図から、子どもの着替え等の世話をする頻度において、全くしない男性を除いて、週に何度かする父親の 60% は、父親役割の重要視していることがうかがえる。

「4. 子どもの遊び相手になる」

子どもの遊び相手になることに対しては、父親役割観の 5 項目すべてが 0.1% 水準 ($p < 0.00$) で有意な関連を示した。その中で、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」と

図 8-4



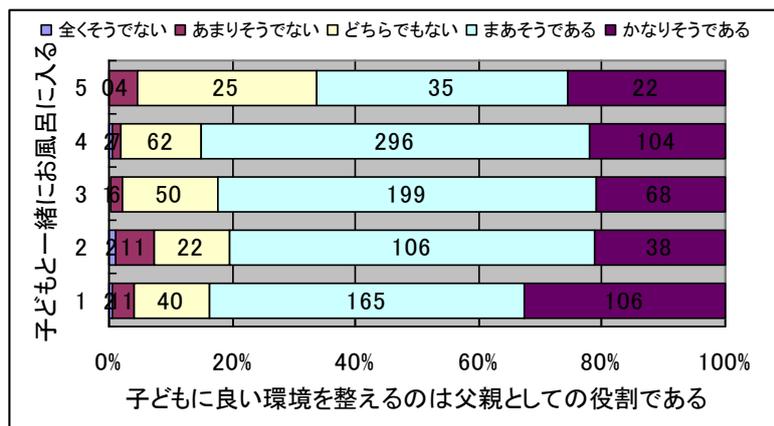
「子どもの遊び相手になる」ことの頻度の関係を図 8-4 で示した。この図から、子どもの遊び相手になる頻度にかかわらず、週に幾度か子どもの遊び相手になる男性は、80% 以上が父親役割を認識していることがうかがえる。全く遊び相手にならない父親のうち約 65% 位が父親役割の認識がないこともうかがえる。

「5. 子どもと一緒に風呂に入る」

子どもとお風呂入ることに対しては、「父親として子どもの成功のためなら何でもする」「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」「父親としての役割を最も重要視している」の 3 項目が 0.1% 水準 ($p < 0.001$) で有意な関連を示した。

その中で、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」と「子どもと一緒に風呂に入る」の頻度の関係を図 8-5 に示した。この図から、父親役割を高く認識している男性が、子どもと一緒に風呂に入っていることがうかがえる。

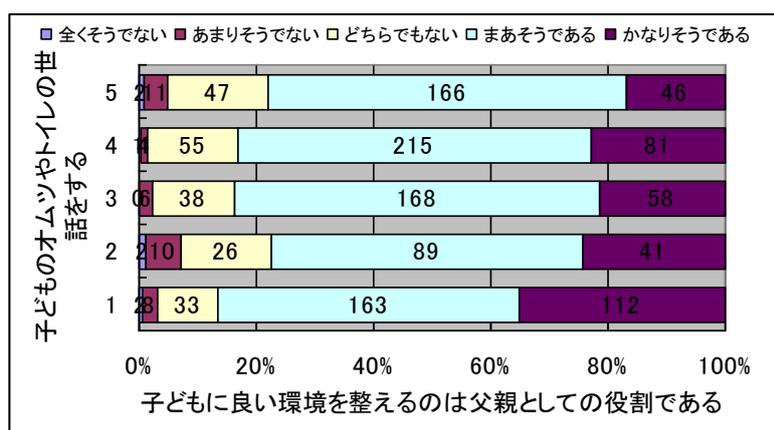
図 8-5



「6. 子どものオムツやトイレの世話をする」

子どものトイレなどの世話をすることに対して、「父親として子どもの成功のためなら何でもする」「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」「父親としての役割を最も重要視している」「父親として子どものしつけを重要視している」の4項目が1%水準 ($p<0.01$) で

図 8-6

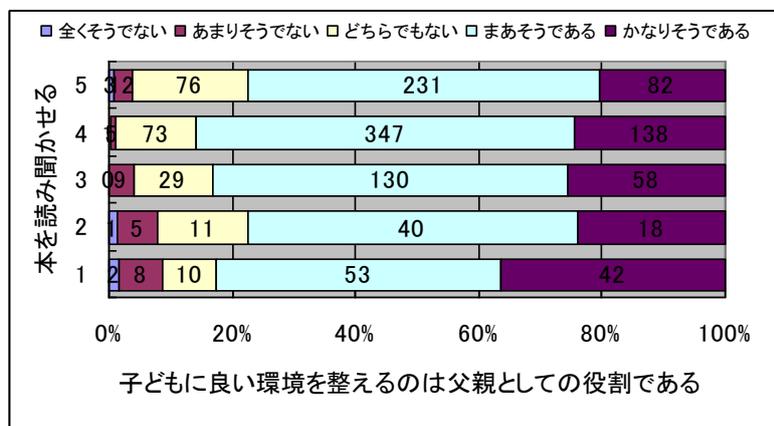


有意な関連を示した。その中で、

「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」と「子どものオムツやトイレの世話をする」の頻度の関係を図 8-6 に示した。この図から、子どものトイレの世話をする父親としない父親の間でも約 80% 前後の父親が父親役割を認識していることがうかがえる。

「7. 本を読み聞かせる」

図 8-7



子どもに本を読み聞かせることに対して、父親役割観の 5 項目すべてが 0.1% 水準 ($p<0.001$) で有意な関連を示した。その中で、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」と「本を読み聞かせる」の頻度の関係を図 8-7 に示した。この図から、父親として環境を整えることを父親の役

割の認識している男性は、本を読み聞かせる頻度のどの帯でも 80%前後いることがわかる。全く読み聞かせができない男性でも、約 8 割近くが父親役割を認識しているということは、時間的余裕がなくて読み聞かせを行えないことが推察される。

(2) 未就学児に対する子育てと父親役割観からの考察

分析の結果から、父親役割観の 5 項目すべてが、子どもの遊び相手になることと本を読み聞かせることに強い関連があることが明らかになった。この結果も、先行研究で明らかになっているように、父親は、子どもの食事の世話等よりも子どもとの遊びの面を分担する傾向が強いことがうかがえる。

また、父親役割観の 5 項目のうち、子育て行動 7 項目と関連が有意であったのは、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」と「父親としての役割を最も重要視している」の 2 項目であった。すなわち、特に父親の役割観に対する意識を表す項目と、子育て行動の項目が関連するというものであり、父親役割観は男性の子育て行動によって重要な要因であることが示されたといえよう。

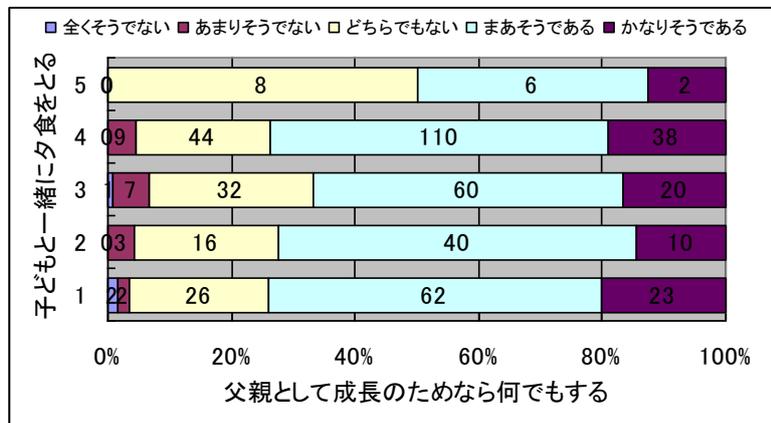
4. 就学児に対する子育てと父親役割観

(1) 就学児子育て項目と父親役割観項目との有意関係の結果

「1. 子どもと夕食をとる」

子どもと夕食をとることに對しては、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」「父親としての役割を最も重要視している」の 2 項目が 5 %水準 ($p<0.05$) で有意な関連を

図 8-8



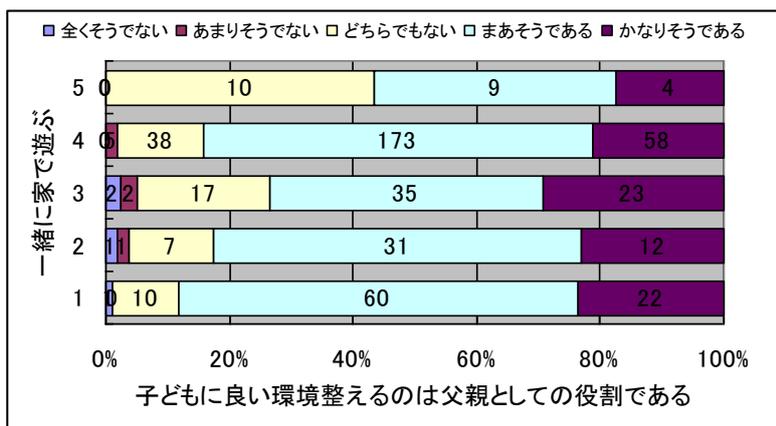
示した。「父親としての役割を最も重要視している」と「子どもと夕食をとる」の頻度の関係を図 8-8 で示した。この図から、週に何度か子どもと夕食をとる男性は、子どもの成長のために考えている割合が、まったく子どもと夕食をとらない男性に比べて、約 20%以上多いことがうかがえる。

「2. 一緒に家で遊ぶ」

子どもと一緒に家で遊ぶことには、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」「父親としての役割を最も重要視している」「父親として子どものロールモデルになりたい」の 3 項目が 5 %水準 ($p<0.05$) で有意な関連を示した。その中で、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」と「一緒に家で遊ぶ」の頻度を図 8-9 で示した。この図から、毎日家で遊び相手になる父が、やはり一番父親役割を認識している割合が多いことがわかるが、週に何度か

の父親も約 80%は父親役割を認識している。

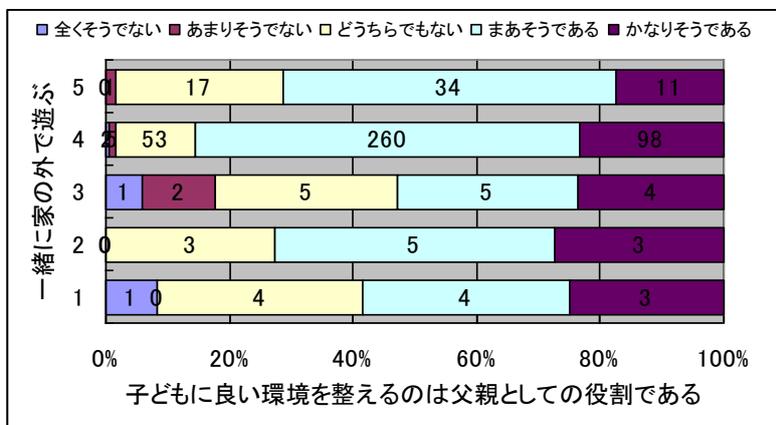
図 8-9



「3. 一緒に家の外で遊ぶ」

子どもと一緒に外で遊ぶことと有意な関連を示したのは、「父親として子どもの成功のためなら何でもする」「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」「父親として子どものロールモデルになりたい」「父親として子どものしつけを重要視している」の4項目であった。その中で、0.1%水準 ($p < 0.001$) で有意であった「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割

図 8-10

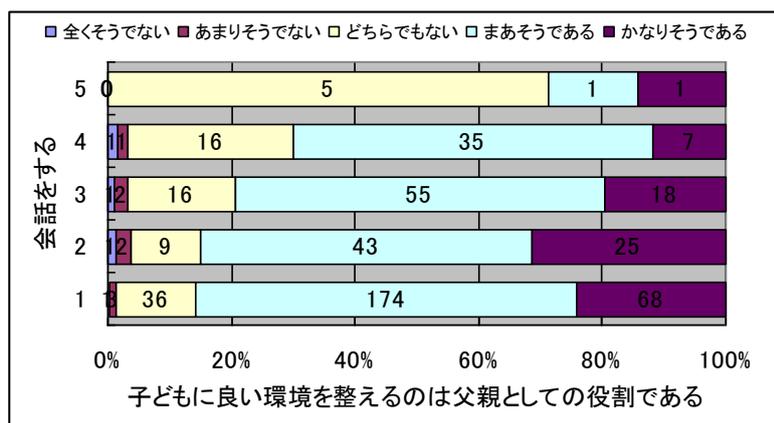


である」と「一緒に外で遊ぶ」の頻度の関係を図 8-10 でしめた。家の外で全く遊ばない父親の約 70%が父親役割を認識しているのに対して、毎日遊ぶ父親の約 60%が父親役割を認識、さらに週に 1~2 回遊ぶ父親の約 90%近くが父親役割を認識しているという分布になっている。

「4. 会話をする」

子どもと会話することと有意な関係を示したのは2項目のみであり、「父親として子どもの成功のためなら何でもする」と「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」であった。そのうち、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」と「会話をする」の頻度の関係を図 8-11 で示した。この図から、子どもとの会話を心がけている父親は、その頻度にかかわらず、約 80%前後の割合で父親役割を認識していることがわかる。全く会話をしない父親の7割が父親役割の認識をもっていないこともうかがえる。

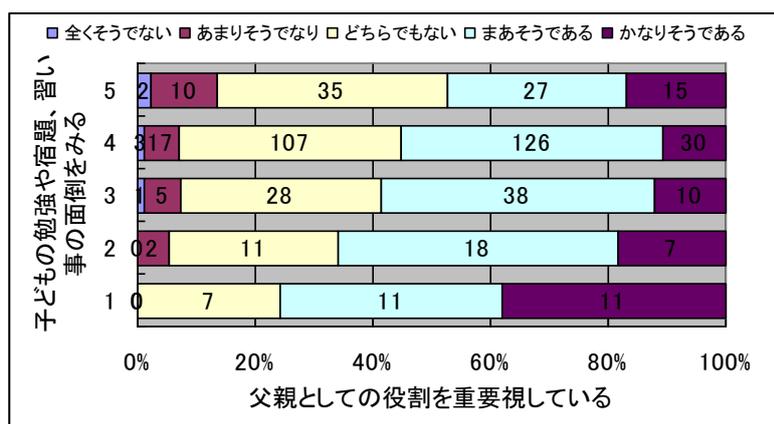
図 8-11



「5. 勉強や宿題、習い事の面倒をみる」

子どもの勉強や習い事の面倒をみることと有意な関連を示したのは、「父親としての役割を最も重要視している」「父親として子どものロールモデルになりたい」「父親として子どものしつけを重要視している」の3項目で5%

図 8-12



重要視している」の3項目で5%水準 ($p<0.05$) であった。その中で、「父親としての役割を最も重要視している」と「勉強や宿題、習い事の面倒をみる」の頻度の関係を図 8-12 で示した。この図から、父親役割を重要視している男性ほど、子どもの勉強や習い事の面倒をみる頻度が多いことがうかがえる。

(2) 就学児に対する子育てと父親役割観からの考察

就学児を持つ父親の子育て行動項目と一番多く有意な関連をしていた父親役割観の項目は、「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」であり、子育て行動4項目と有意であった。これは、すなわち、未就学児の父親と同様に、就学児の父親にとっても父親役割観が高いほど子育て行動が多いということを示している。また、「父親としての役割を最も重要視している」父親は、子どもと食事をしたり、家で遊んだり、勉強や習い事の面倒をみたりといった子育て行動と関連していたことから、父親役割観を持っている父親ほど、子どもとかかわろうとする面がうかがえる。父親アイデンティティである父親役割観は男性の子育て行動にとって重要な要因であるといえよう。

一方、一緒に食事をする 것과子どもと会話することに関しては、父親役割観5項目のうち2項目しか有意ではなく、父親の仕事の帰宅自宅の遅さから時間的余裕がない状況がうかがえる。

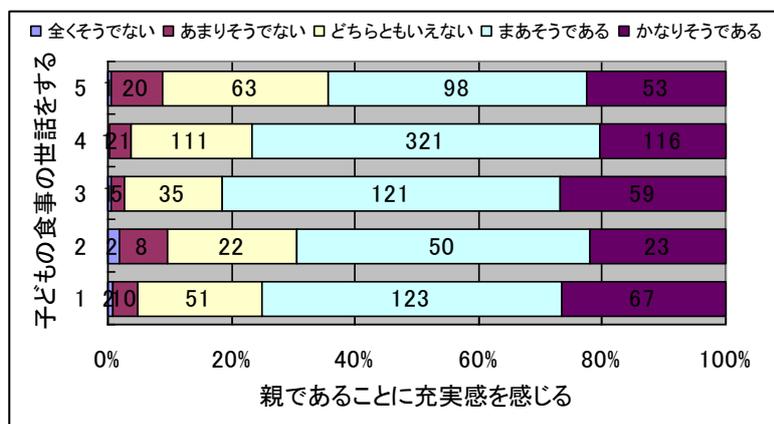
5. 未就学児に対する子育てと子どもの価値観

(1) 未就学児子育て項目と子どもの価値観項目との有意関係の結果

「1. 子どもの食事の世話をする」

子どもの食事の世話をすることと有意な関連があったのは、「親であることに充実感を感じる」「子どもは生きがいである」「子どもは心のささえである」の3項目であった。このうち、「親であることに充実感を感じる」と

図 8-13



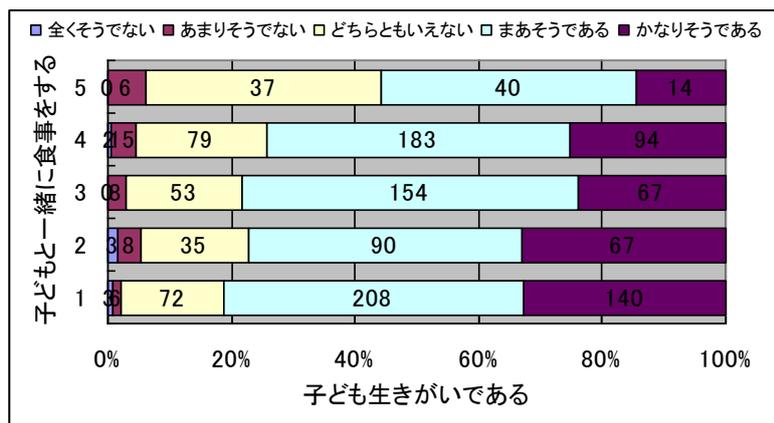
あることに充実感を感じる」と「子どもの食事の世話をする」の頻度の関係を図 8-13 で示した。この図から、頻度にかかわらず、子どもの食事の世話をする父親の約 70~80%が、親であることに充実感を感じていることがわかる。

子どもの食事の世話をしない男性の約 6割も親としての充実感を感じていることもうかがえる。

「2. 子どもと一緒に食事をする」

子どもと一緒に食事をすることに対して、「子どもは生きがいである」「子どもは心のささえである」が 0.1%水準 ($p<0.001$)、「親であることに充実感を感じる」と「自分の中で最も重要なのは子どもである」が 1%水準 ($p<0.01$) で有意な関連を示した。このうち、「子どもは生きがいである」と「子どもと一緒に食事をする」の頻度の関係を図 8-14 で示した。この図から、週

図 8-14



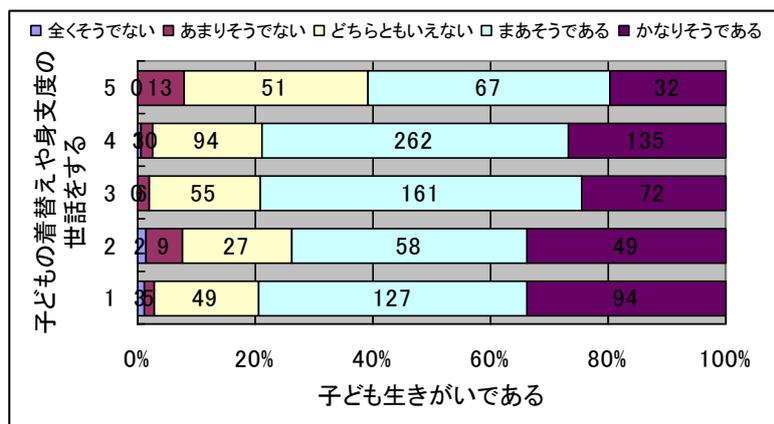
に何度かでも一緒に子どもと食事をする男性の役 8割が、子どもを生きがいとして認識していることがうかがえる。

「3. 子どもの着替えや身支度の世話をする」

子どもの身支度等の世話をすることに対しては、4項目が有意な関連を示した。「自分の中で最も重要なのは子どもである」「子どもは生きがいである」「子どもは心のささえである」が 0.1%

水準 (p<0.001)、「親であることに充実感を感じる」が1%水準 (p<0.01) で有意な関連を示した。

図 8-15

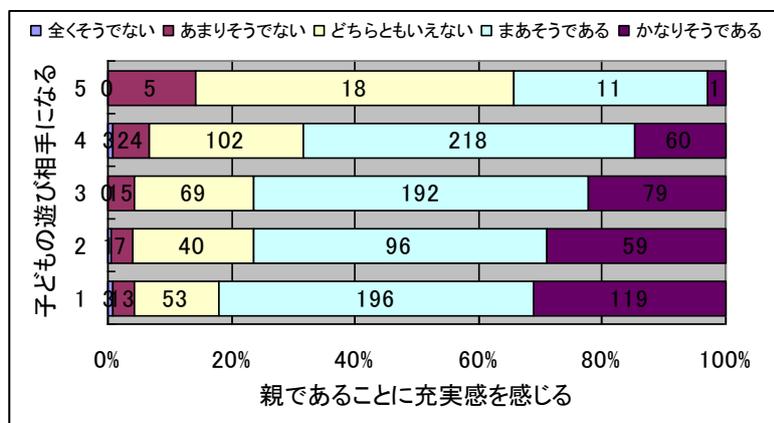


このうち、「子どもは生きがいである」と「子どもの着替えや身支度の世話をする」の頻度の関係を図 8-15 に示した。子どもの身支度の世話をしている男性の約 8 割は、子どもを生きがいにしていることがうかがえる。

「4. 子どもの遊び相手になる」

子どもの遊び相手になることに対しては、子どもの価値を測る 5 項目すべてが有意な関連を示した。「親であることに充実感を感じる」「自分の中で最も重要なのは子どもである」「子どもは生きがいである」「子どもは心のささえである」は 0.1%水準 (p<0.001) で、「子どもは自分の分身だと思う」は 1%水準 (p<0.01) で有意な関連を示した。このうち、「親であることに充実感を感じる」と「子どもの遊び相手になる」の頻度の関係を図 8-16 に示した。

図 8-16

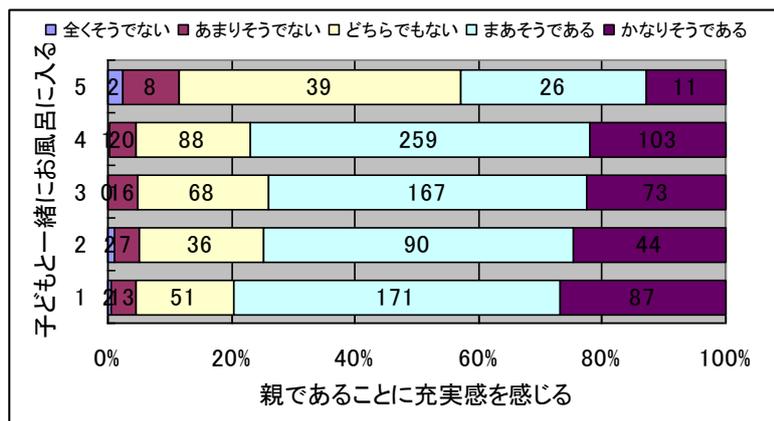


この図から、毎日子どもの遊び相手になる男性が一番多い割合で親である充実感を感じており、全く遊ばない男性は約 3 割強の割合でしか親である充実感を感じていないことがうかがえる。

「5. 子どもと一緒に風呂に入る」

子どもとお風呂入ることに対しては、「親であることに充実感を感じる」と「子どもは心のささえである」は 0.1%水準 (p<0.001) で有意な関連を示し、「自分の中で最も重要なのは子どもである」「子どもは生きがいである」も有意な関連を示した。このうち、「親であることに充実感を感じる」と「子どもと一緒に風呂に入る」の頻度の関係を図 8-17 に示した。この図から、週に何度かでも子どもとお風呂に入る父親の約 8 割が親であることに充実感を感じているのに対して、まったく入れていない父親は、約 4 割しか感じていないことがうかがえる。

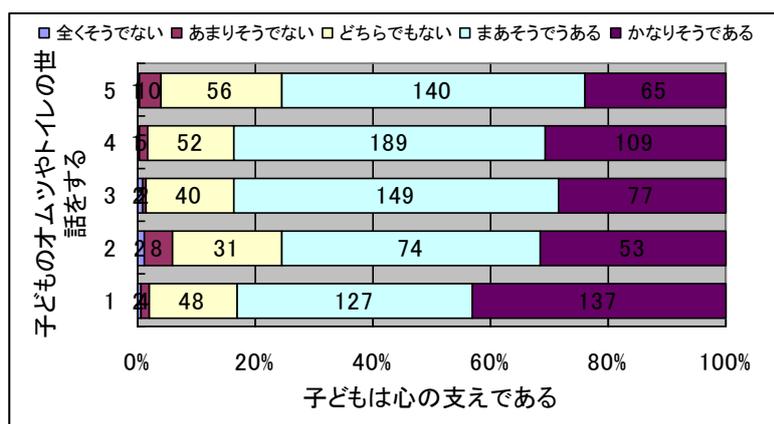
図 8-17



「6. 子どものオムツやトイレの世話をする」

子どものトイレなどの世話をすることに対して、「親であることに充実感を感じる」と「子どもは心のささえである」が 0.1%水準 ($p<0.001$) で有意な関連を示し、「自分の中で最も重要なのは子どもである」「子どもは生きがいである」が 1%水準 ($p<0.01$) で有意な関連を示した。こ

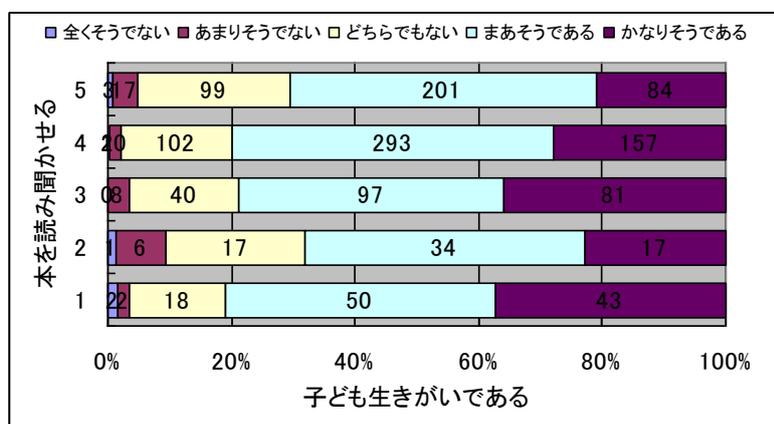
図 8-18



のうち、「子どもは心のささえである」と「子どものオムツやトイレの世話をする」の頻度の関係を図 8-18 で示した。この図から、子どものトイレ等の世話をしている父親も全くしていない父親もほとんど約 8 割前後の父親が、子どもを心の支えにしていることがうかがえる。

「7. 本を読み聞かせる」

図 8-19



子どもに本を読み聞かせることに対して 4 項目が有意な関連を示し、「親であることに充実感を感じる」「子どもは生きがいである」「子どもは心のささえである」が 0.1%水準 ($p<0.001$)、「自分の中で最も重要なのは子どもである」が 1%水準 ($p<0.01$) であった。「子どもは生きがいである」と「本を読

み聞かせる」の頻度の関係を図 8-19 に示した。この図から、週に何度か子どもに本の読み聞かせをする父親の約 70~80%が子どもを生きがいにしているが、まったく読み聞かせを行わない父親も 7 割が子どもを生きがいにしていることがうかがえる。

(2) 未就学児に対する子育てと子どもの価値観からの考察

子どもと遊ぶという項目に対しては、子どもに対する価値観の全項目が有意な関連を示していた。また、他の子育て行動についても、子どもの価値観の殆どの項目が有意な関連を示していた。すなわち、父親役割観と同様に、男性の子育て行動には子どもに対する価値観の強い関連がうかがえ、男性にとって父親アイデンティティは重要な要因であるといえよう。

ここで特筆すべきは、「子どもは自分の分身だと思う」という項目とは「子どもと遊び相手になる」という子育て行動しか有意ではないことである。このことから、自分の子どもを分身であると考えている男性が少ないことがうかがえる。子どもを 1 人の人間として認め、分身扱いしない男性が増えているということであろうか。

子どもを重要だと感じているから、子育て行動をし、子どもに生きがいを感じ、子どもが心のささえになり、親として充実しているのか因果関係はわからないものの、子どもの価値観は男性の子育て行動と高い関連を示すことは明らかである。

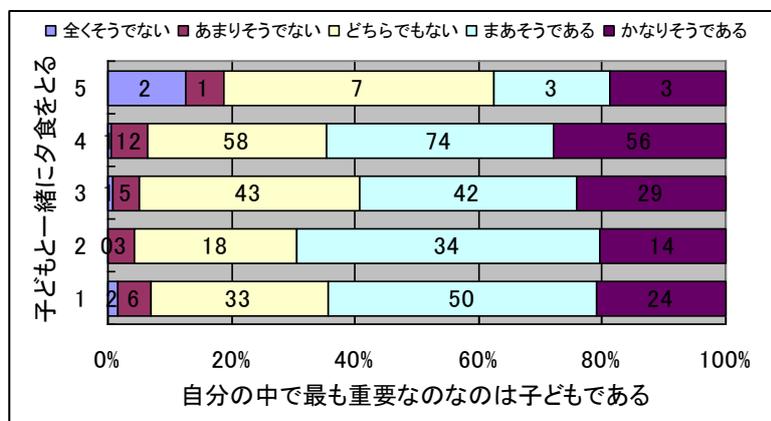
6. 就学児に対する子育てと父親役割観

(1) 就学児子育て項目と子どもの価値観項目との有意関係の結果

「1. 子どもと夕食をとる」

子どもと夕食をとることと有意な関連を示したのは、「自分の中で最も重要なのは子どもである」「子どもは心のささえである」の 2 項目であり、両方 5%水準 ($p<0.05$) であった。「自分の中で最も重要なのは子どもである」と「子どもと夕食をとる」の頻度の関係を図 8-20 で示した。この図から、毎日であろうと週に何度かであろうと、子どもと一緒に夕食をとる父親の役 60%~70%が、子どもを重要視していることがうかがえるが、全く子どもと食事をとらない父親では、約 4 割弱しか子どもを重要視していないことがうかがえる。

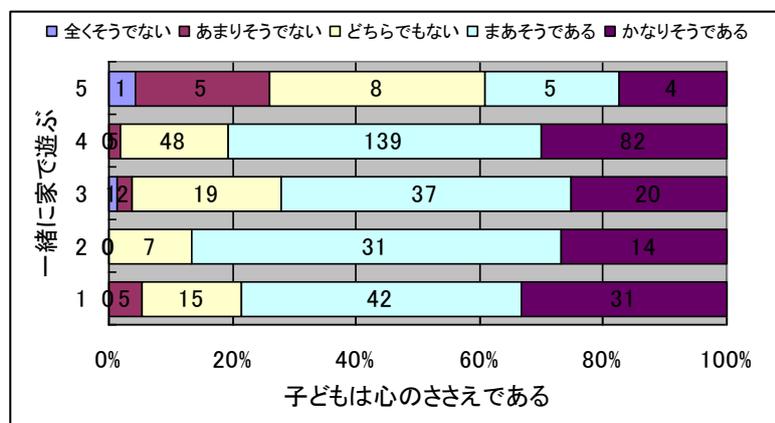
図 8-20



「2. 一緒に家で遊ぶ」

子どもと一緒に家で遊ぶことと有意な関連を示したのは4項目であり、「自分の中で最も重要なのは子どもである」と「子どもは心のささえである」が0.1%水準 ($p<0.001$)、「親であることに充実感を感じる」「子どもは生きがいである」が1%水準 ($p<0.01$)であった。「子どもは心のさ

図 8-21

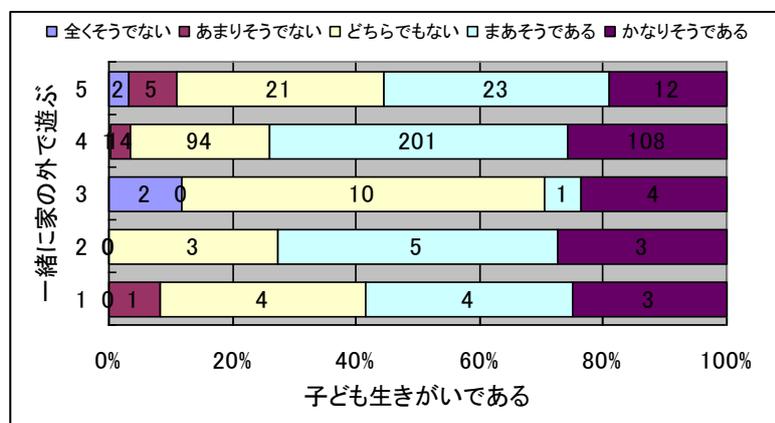


さえである」と「一緒に家で遊ぶ」の頻度の関係を図 8-21 で示した。この図から、子どもと遊ぶ父親の約 8 割前後が子どもを心のささえにしているのに対して、全く遊ばない父親では 4 割弱した心のささえにしていなことがうかがえる。

「3. 一緒に家の外で遊ぶ」

子どもと一緒に外で遊ぶことと有意な関連を示したのは 4 項目であり、「子どもは生きがいである」と「子どもは心のささえである」が 0.1%水準 ($p<0.001$)、「親であることに充実感を感じる」が 1%水準 ($p<0.01$)、「自分の中で最も重要なのは子どもである」が 5%水準 ($p<0.05$)で

図 8-22

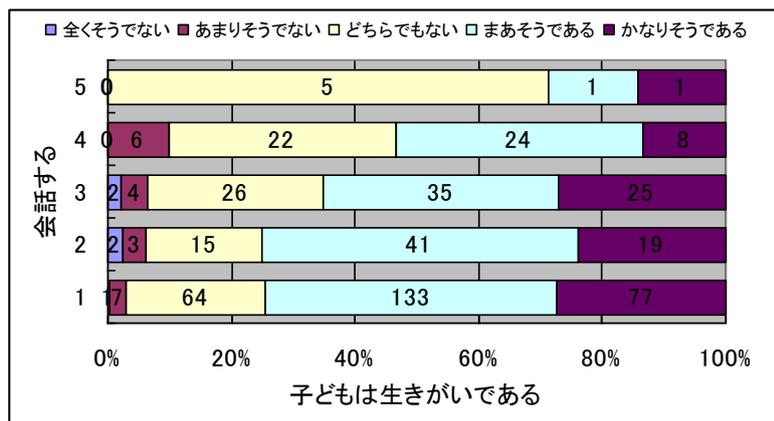


あった。このうち、「子どもは生きがいである」と「一緒に外で遊ぶ」の頻度の関係を図 8-22 で示した。週に 3~4 回子どもと家の外で遊ぶ父親が、子どもを生きがいにしている割合が低く、約 30%という結果になっている。

「4. 会話をする」

子どもと会話することと有意な関係を示したのは、「親であることに充実感を感じる」「自分の中で最も重要なのは子どもである」「子どもは生きがいである」の 3 項目である。このうち、1%水準 ($p<0.01$) で有意であった「子どもは生きがいである」と「会話をする」の頻度の関係を図 8-23 で示した。この図から、子どもと週に 5~7 回会話する父親の約 8 割弱が、週に 1~4 回会話する父親の約 6 割前後が子どもを生きがいだと感じているのに対して、全く会話しない父親の約 7 割は子どもを生きがいに感じていないことがうかがえる。

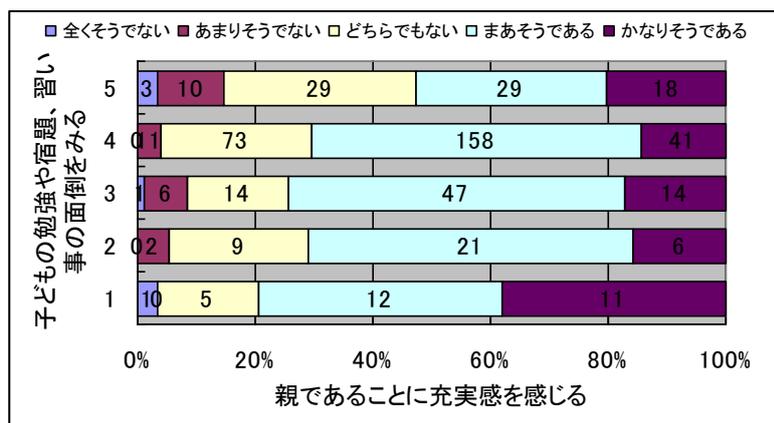
図 8-23



「5. 勉強や宿題、習い事の面倒をみる」

子どもの勉強や習い事の面倒をみることと有意な関連を示したのは、「親であることに充実感を感じる」が 0.1%水準 ($p < 0.001$)、「自分の中で最も重要なのは子どもである」「子どもは生きがいである」「子どもは心のささえである」が 1%水準 ($p < 0.01$) であった。「親であることに充実感を感じる」と「勉強や宿題、

図 8-24



習い事の面倒をみる」の頻度の関係を図 8-24 で示した。この図から、子どもの勉強や習い事の面倒をみる父親の約 70~80%が親としての充実感を味わっていることがうかがえる。

(2) 就学児に対する子育てと子どもの価値観からの考察

就学児を持つ父親の場合、子育ての5項目すべてに対して、「子どもは自分の分身だと思う」の項目は関連していなかった。子どもが生まれたばかりの幼少期ならともかく、就学児ともなると余計に、一人の人間としてわが子をみなす度合いが強くなることがうかがえる。

子育て5項目すべてに有意な関連を示したのは、「自分の中で最も重要なのは子どもである」という項目であり、他の子どもの価値観3項目はそれぞれ子育て行動の4項目と有意な関連であった。子どもに対する重要度が高い父親は、いろいろな面での子育て行動が多いということがうかがえる。また、親である充実感を感じ、子どもを生きがいと考えている父親は、食事以外の子どもとの行動に対して有意な関連を示している。このことは、就学児ともなると、親子の日常の相互作用が頻繁になり、子育てを通しての親としての充実感や生きがいにつながり、子どもが心の

ささえになることが考えられる。

父親の就学児に対する子育て行動にとっても、父親の子どもに対する価値観は重要な要因であり、父親としてのアイデンティティを高める要因ということが示されたといえるであろう。

引用文献

Fox G. T., & Bruce C., 2001, "Conditional Fatherhood: Identity Theory and Parental Investment as Alternative Sources of Fathering," *Journal of Marriage and Family*, 63: 394-403.

Ishii-Kuntz M., 2003, "Balancing fatherhood and work: Emergence of diverse masculinities in contemporary Japan," In James Roberson and Nobue Suzuki E. D., *Men and masculinities in Japan*. New York; Routledge. 198-216.

石井クンツ昌子, 2009, 「父親の役割と子育て参加」ーその現状と規定要因, 家族への影響についてー』『季刊家計経済研究』81: 16-23.

柏木恵子, 若松素子, 大野祥子, 1996, 「親としての成長・変化と育児参加: 親にとっての子どもの価値と育児参加」 牧野カツコ・中野由美子・柏木恵子(編) 『子どもの発達と父親の役割』 京都ミネルヴァ書房, 121-134.

佐々木卓代, 2009, 「父親の子育て参加と子どもの親和性」『家族関係学』28: 43-55.